

CSR 検定 2 級 第 7 回試験 (2021 年) 問題 正答

問題 1 ISO26000 における「CSR の原則」に関する次の記述で、最も不適切なものを 1 つ選べ。

正答：イ（コミュニティへの参画とコミュニティの発展は「CSR の中核主題」）

公式テキスト：はじめに CSR の Why, What, How を知る

問題 2 ISO26000 における中核主題として、最も不適切なものを 1 つ選べ。

正答：エ（ダイバーシティは中核主題ではない）

公式テキスト：はじめに CSR の Why, What, How を知る

問題 3 CSV に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：エ

公式テキスト：1-2 CSR と CSV の新しい位置づけ

問題 4 中小企業の CSR 経営に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ（1 と 3 と 4 が適切、2 は、「中小企業は、大企業に比べて、経営に影響を与える重要なステークホルダーを絞り込んで、期待やニーズを特定し、それらに対応することによるリターンを把握することが「容易」である」

公式テキスト：1-3 中小企業の CSR 経営

問題 5 循環経済（サーキュラーエコノミー）に含まれる活動に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

1. 正答：ウ（1 と 2 と 3 が適切、4 は、伝統的な「資源の採取、生産、廃棄」——は循環経済の概念ではない）

公式テキスト：コラム 1

問題 6 下記の文章の空欄に該当する語句で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：イ（ソフトローは法的拘束力はない、ハードローは法律や条例、CSR イニシアティブは 2000 年ごろに策定された）

公式テキスト：2-2 ソフトローからハードローへの新潮流

問題 7 下記の中で、GRI ガイドライン（G4）の 4 原則に該当しないものを一つ選べ。

正答：エ（「ISO26000 や SDGs への対応」は広義のコンプライアンス）

公式テキスト：1-2 CSR と CSV の新しい位置づけ

問題 8 国際統合フレームワークの狙いに関する次の記述で適切なものはいくつあるか。

正答：イ（2 と 4 が適切、1 は「非財務資本の提供者」ではなく「財務資本の提供者」、3 は「コンプライアンス」ではなく「説明責任」）

公式テキスト：2-6 サステナビリティ報告のガイドライン

問題 9 「ビジネスと人権」に関する下記の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：ア（1 が適切、2 は「離れたところ」が間違い、3 は「人権とは関係しない」が間違い、4 は「経験していない」が間違い）

公式テキスト：2-3 「ビジネスと人権」に関する国際的な枠組み

問題 10 下記のサプライヤーの責任に関する記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ（1と2と4が適切、3は「納得する」が間違い）

公式テキスト：2-4 社会・環境に配慮した認証制度

問題 11 CSRを経営に統合するための「CSR マネジメント」の必須3要素の説明として、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ（「足し算」ではなく「掛け算」が適切）

公式テキスト：3.1 CSR マネジメントの考え方

問題12 企業のCSR担当部門が、CSR推進体制を構築するにあたっての重要なポイントとして、適切なものはいくつあるか。

正答：イ（2と4が適切、1は「お仕着せの規範に則るのではなく」が間違い、3は「組織の社会貢献活動は専門部署のみが担う」が間違い）

公式テキスト：3.2 CSR のビジョン確立、システム構築、教育

問題 13 CSR のマテリアリティの特定に関する下記の文章の空欄に該当する語句で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト：3.3 マテリアリティの特定

問題 14 下記の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ（「インサイド・アウト」ではなく「アウトサイド・イン」が適切）

公式テキスト：3.4 CSR 指標の設定とインパクト評価

問題 15 一般的な傾向として、日本企業の CSR レポートに改善が望まれる方向性についての記述として、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ（「当該年度の活動とその結果を漏れなく列挙することに注力する」が間違い）

公式テキスト：3.5 サステナビリティの情報開示／レポーティング

問題 16 企業のCSR担当者が「ステークホルダーダイアログ」を実施するにあたっての説明として、適切なものはいくつあるか。

正答：ア（3が適切、1は「ディベート」が間違い、2は「対立」が間違い、4は、機関投資家向けの指針は「日本版スチュワードシップ・コード」）

公式テキスト：3.6 ダイアログとエンゲージメント／4.1 重要なステークホルダーの視点

問題 17 下記の文章の空欄に該当する語句・数字で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：4.2 CSR における NGO/NPO の役割／4.3 NPO/NGO による企業評価

問題 18 国際環境 NGO であるグリーンピースの「IDEAL(理想)原則」は、「Investigate(科学的調査をする)」から始まる 5 段階からなる概念であるが、「D」以降の頭文字が由来する単語として不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：4.3 NPO/NGO による企業評価

問題 19 下記の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア（アは「含まれない」が間違い）

公式テキスト：4.4 消費者の役割／エシカル消費／サステナブル消費／4.5 株主・投資家としての責任

問題 20 下記の中で、GRI スタンドアードの「報告内容に関する原則」に該当しないものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：4.6 CSR 報告書をステークホルダー視点で読む

問題 21 「SDGs の全体像と狙い」に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：イ（1 と 2 が適切、3 は「別のものと考えるべき」が間違い、4 は「各企業が貢献できる程度や各目標に付随するリスクや機会は同等である」が間違い）

公式テキスト：5-2 SDGs の全体像と狙い

問題 22 英国の「Modern Slavery Act 2015（現代奴隷法）」における「現代奴隷」の定義で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：5-1 2015 年はサステナビリティの大転換点（コラム 7）

問題 23 「ダイバーシティとインクルージョン」に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ（2 と 3 と 4 が適切、1 は LGBTQ に「クエスチョニング/クイア」が入っていない）

公式テキスト：5-5 ダイバーシティとインクルージョン

問題 24 「TCFD」（気候関連財務ディスクロージャー・タスクフォース）に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア（「非財務インパクト」ではなく「財務インパクト」が適切）

公式テキスト：5-3 気候変動に関わる動き

問題 25 「SBT」（科学的根拠に基づいた排出削減目標）に関する次の記述で、不適切なものはいくつあるか。

正答：ア（3 が不適切、当初「+1.5℃目標」が間違い）

公式テキスト：5-3 気候変動に関わる動き、5-6 ESG の情報発信／サステナブル金融の流れ（コラム 11）

問題 26

社会における NGO/NPO の役割とは何か、そして企業は NGO/NPO とどう向き合うべきか、記述しなさい（400 字以内）

（解答例）

NPO は社会的弱者や声なきステークホルダーの声を代弁するほか、企業の監視者「ウォッチドッグ」としての機能がある。不法行為や不適切な行為を行っている企業に対して、NGO/NPO の主張が正当であれば、多くの人々の支持を得ることで、NGO/NPO は社会正義の代弁者となる。企業は、政府の取り締まり、評判の毀損、売り上げの低下、ひいては株価の下落のような事態に見舞われる可能性があるため、こうした NGO/NPO の主張には前向きに対処する必要がある。CSR に積極的な企業であれば、こうした事態に陥る前に、ステークホルダーの関心に敏感に対応し、適切な対処をすることであろう。さらに、企業が社会的課題の解決に資するビジネスの実施を意図している場合には、その社会的課題において専門性が高い NGO/NPO がパートナーになることで、地域社会や関係者へのアクセスを得やすくなるなど、事業を成功に導く手助けも期待できる。

（397 文字）

問題 27

サステナビリティや CSR、ESG、SDGs の取り組みが、企業の価値を高めるプロセスを記述しなさい(400 字以内)

(解答例)

企業が社会からの要請に応える「社会対応力」を高めることで、市場ニーズの先にある「社会ニーズ」を取り込み（SDGs アウトサイドイン）、他社にはつかみにくい「未来の顧客」を創造することができる。CSR の取り組みを進めることは ES（従業員満足度）や CS（顧客満足度）の向上にも役立つ。社会の持続可能性に貢献し、社会から評価される企業は、社員のプライド・やる気を高められる。社員がプライドを醸成できれば、不祥事の防止にも役立つ。同時に、サプライチェーンの人権問題など、サステナビリティ領域における潜在リスクをいち早く察知し、その防止や対策に役立てられる。ダイバーシティ（多様性）を実現できている組織の方が、より柔軟に社会課題に対応でき、リスク対応力も高いとされる。ESG（環境・社会・ガバナンス）投資の面からも、投資先の選定においてサステナビリティの取り組みが重視されるので、継続的な取り組みが重要である。

(399 文字)